

平成30年度 第1回

## 山根市民センター運営審議会

日時 平成30年7月11日(水)  
午後2時～

場所 山根市民センター集会室

### 次 第

1 開 会

2 委嘱状交付

3 会長・副会長選任, 挨拶

4 議 事

- (1) 平成29年度山根市民センター事業報告について
- (2) 平成29年度山根市民センター利用状況について
- (3) 平成30年度市民センター定期講座募集状況について
- (4) 平成30年度市民センター運営方針及び重点目標について
- (5) その他

5 閉 会

## 水戸市山根市民センター運営審議会委員

任期 平成30年4月1日～平成32年3月31日

	ふりがな	選出区分	団体等名及び役職名	備考
	委員の氏名			
1	たかぎ みのる	市民活動団体	山根自治連合会会長	
	高儀 稔			
2	おおつ しんいち	市民活動団体	山根自治連合会前生涯学習部長	
	大津 新一			
3	おおのぶ しげのり	市民活動団体	社会福祉協議会山根支部長 民生委員	
	大信 重典			
4	やつ れいこ	市民活動団体	山根自治連合会福祉厚生部員 食生活改善推進員	
	谷津 玲子			
5	おおたか たかこ	市民活動団体	前民生委員 食生活改善推進員	
	大高 尚子			
6	ぬまた ゆういちろう	学校教育関係者	水戸市立双葉台中学校校長	
	沼田 祐一郎			

## (1) 平成29年度山根市民センター事業報告について

### 講座等

事業名	開催日	講師	参加人数
山根寿学級①	29. 6. 22	水戸市西部高齢者支援センター	26名
やまね寄席	29. 7. 10	斎須博（二松亭ちゃん平）先生	10名
ヘルシークッキング	29. 7. 27	食生活改善推進員山根支部	13名
夏休み子ども絵画教室	29. 8. 2/3	兼川良子先生	延べ34名
山根寿学級②	29. 10. 19	小貫医院 小貫喜久子先生外	32名
料理講習会	29. 10. 26	食生活改善推進員山根支部	14名
クリスマスフラワーアレンジメント教室	29. 12. 21	小山幸子先生	18名
和小物づくり教室	30. 1. 29	大里芳子先生	13名
エコクラフトカゴ作り教室	30. 2. 16	中村キヌエ先生	10名
ヨガ教室	30. 3. 12	井口裕美先生	15名

### 移動学習

事業名	開催日	行き先	参加人数
移動学習（市バス）	29. 7. 4	サイエンス・スクエアつくば, 筑波実験植物園	39名
山根地区歩く会（福祉バス）	29. 10. 15	滝川溪谷（福島県矢祭町）	42名
山根地区合同研修会（福祉バス）	29. 12. 15	鬼平江戸処（羽生）, 蔵の街・小江戸川越	39名

### 三世代ふれあい事業

事業名	開催日	参加人数	備考
三世代ふれあい奉仕作業①	29. 6. 10	28名	
太鼓練習会①	29. 8. 5	32名	
太鼓練習会②	29. 8. 20	32名	
三世代ふれあい奉仕作業②	29. 9. 30	25名	
三世代ふれあいグランドゴルフ大会	30. 3. 4	58名	

### 文化祭

事業名	開催日	参加人数	備考
山根市民センター文化祭	30. 3. 3/4	280名	作品展示, 学習発表会

山根自治連合会等

事業名	開催日	参加人数	備考
山根自治連合会役員会、実行委員会等	29. 4. 21他10回	延べ180名	
山根自治連合会総会	29. 5. 13	32名	
花苗配布	29. 5. 24	7花壇	ペコニア
西部地区球技大会（ソフトボールの部）	29. 5. 28/6. 4	1チーム	谷津ファイターズ
花苗配布	29. 6. 8	7花壇	サルビア・マリーゴールド・アゲラタム
花壇コンクール	29. 6. 27	3花壇	
山根地区お父さんソフトボール大会	29. 7. 30	2チーム	谷津ファイターズ、木葉下チーム
三世代ふれあい盆踊り大会	29. 8. 20	350名	
山根地区敬老会	29. 9. 17	98名	対象者数199名、うち62名出席 旧山根小体育館
市お父さんソフトボール大会	29. 9. 24	1チーム	谷津ファイターズ
第43回山根地区ゴルフ大会	29. 9. 29	20名	水戸・ゴルフ・クラブ
山根地区市民運動会	29. 10. 8	160名	旧山根小体育館
山根市民歩く会	29. 10. 15	42名	滝川溪谷（福島県矢祭町）
ひとり暮らし及び高齢者の方への食事サービス	29. 11. 10	59名	
西部ブロック球技大会（ソフトボールの部）	29. 11. 19	—	参加なし
寝たきり及び高齢者の方への出前そば	29. 12. 8	31名	
山根地区防災訓練	30. 1. 27	76名	
花苗配布	30. 3. 2	7花壇	パンジー

## (2) 平成29年度山根市民センター利用状況について

### ①施設利用状況

#### 団体別

	市民センター		社会教育団体		市・県関係		その他		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
29年度	231	2,719	25	477	25	650	608	7,518	889	11,364
28年度	192	2,406	46	835	40	852	554	7,449	832	11,542
27年度	185	2,347	43	764	63	1,216	548	7,218	839	11,545
26年度	191	2,577	56	949	37	841	505	6,336	789	10,703
25年度	200	2,437	28	602	27	976	465	4,788	720	8,803

#### 部屋別

	ホール		集会室		和室		調理室		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
29年度	654	9368	169	1,457	54	356	12	183	889	11,364
28年度	579	9,379	183	1,649	59	379	11	135	832	11,542
27年度	544	9,167	208	1,719	67	483	20	176	839	11,545
26年度	566	8,540	151	1,462	63	577	9	124	789	10,703
25年度	494	6,471	147	1,527	48	523	31	282	720	8,803

### ②窓口利用状況

(単位：件)

	証明書発行				納税等	合計
	印鑑証明	住民票	戸籍	その他		
29年度	147	134	79	144	142	646
28年度	136	133	69	197	138	673
27年度	172	144	74	179	172	741
26年度	138	124	63	145	238	708
25年度	161	172	51	155	396	935

(3) 平成30年度山根市民センター定期講座募集状況について

教室

教室名	講師名	開催日	募集定員	入会者	備考
銭太鼓	鈴木 幸枝 先生	毎月 第1・3(金)	14名	8名	
太極拳	富田 美恵子 先生	毎月 第2・4(火)	23名	11名	
パッチワーク	田崎 加津子 先生	毎月 第1・3(土)	14名	10名	
歌謡	金沢 はるみ 先生	毎月 第1・3(水)	15名	11名	
山根ヨガクラブ	井口 裕美 先生	毎月 第2・4(金)	20名	15名	
ピフィラティス	佐藤 仁美 先生	毎月 第2・4(水)	20名	13名	
セラピー体操	吉村 美智代 先生	毎月 第1・3(木)	17名	5名	

クラブ

クラブ名	講師名	開催日	募集定員	入会者	備考
絵てがみ	鯨 和子 先生	毎月 第1・3(水)	15名	9名	
山根ダンススポーツクラブ 《社交ダンス》	前田 正寛 先生 明石 則子 先生	毎週月曜日	18名	12名	
山根ヨガコスモス	井口 裕美 先生	毎月 第1・3(月)	20名	20名	

## (4) 平成 30 年度山根市民センター運営方針及び重点目標について

### 運 営 方 針

近年、人口減少社会や超高齢社会の到来をはじめ、都市化の進展、価値観の多様化、生活圏の拡大など、市民を取り巻く状況は大きく変化している。

こうした状況にあっても、市民が安心して暮らし、幸せを感じられるまちを形成していくためには、今後ますます地域コミュニティ活動と生涯学習活動の推進が必要となる。

山根市民センターにおいては、地域コミュニティ活動の拠点として、その継続や発展に向けた支援に努めるとともに、生涯学習活動の拠点として、その充実や成果を生かす環境づくりに努め、さらには、東日本大震災での経験を踏まえ、地域防災活動の拠点としての機能充実を図っていくものとする。

### 重 点 目 標

#### 1 地域コミュニティ活動の推進

##### (1) 地域コミュニティ活動の活性化

- (ア) 地域自らが地域の将来像や課題を共有し、特色のある地域づくりや課題の解決を進めることができるよう、地域コミュニティプラン実現に向けた取組への支援を促進し、住みよいまちづくり推進協議会を中心とした自主的な活動を推進する。
- (イ) 各種コミュニティ団体等の活動を支援するとともに、NPO等との連携を促進しながら、よりよい地域づくりに向けた情報の共有化を進めるなど、地域コミュニティ推進体制の充実、連携強化を図る。
- (ウ) 町内会・自治会への参加意識や自治意識の高揚を図るため、地域団体や関係機関と連携強化を図り、地域コミュニティ活動内容を積極的に発信するとともに、地区会の基盤である町内会・自治会の加入率の向上に努める。
- (エ) 市民自らが意欲を持って地域活動に参加できるよう、一人一役運動を進めるほか、人材育成のための研修会を通して、地域を支えるリーダーづくりを推進する。

##### (2) 地域コミュニティ活動環境の充実

山根市民センターにおける様々な活動環境の一層の充実に向け、施設の利用状況や地域の実情等にあわせたコミュニティルームの積極的な活用方法を検討する。

##### (3) 地域防災活動との連携

災害発生時の初動対応については、地域における防災組織が重要な役割を担うものであることから、平常時より、地域での防災訓練への支援、地域における災害リスクや連絡体制の確認を行うなど、地域における防災組織との連携を図る。

## 2 生涯学習活動の推進

### (1) 学習機会の充実

生涯学習活動の拠点施設である山根市民センターにおいては、「個人の要望」する学習による生きがいを進めるとともに、家庭教育への支援や青少年の健全育成、少子高齢化への対応などの「社会の要請」に応じた、現代的課題を取り扱った学習機会の提供に努める。

また、内原中央公民館や各市民センターの一般教養講座・教室・クラブ等、みと好文カレッジの事業を総称した『みと弘道館大学』が市民に親しまれ、生涯学習が市民のライフスタイルに定着し生涯にわたって学び続けることができるような学習機会の提供に努める。

#### (ア) 市民ニーズを捉えた学習機会の提供

市民の学習ニーズを把握し、健康で生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、生涯学習のきっかけづくりを図るとともに、それぞれの世代に合った学習機会の提供に努める。

#### (イ) 現代的課題を取り扱った講座の開催

変化の激しい社会情勢に対応していくために、成人学級、高齢者学級等の講座に現代的課題を取り扱ったテーマを組み入れるなどの手法により、地域課題を主体的に捉える学習機会の充実に努める。

また、事業実践集を活用しながら、地域団体と山根市民センターが一体となった協働事業を積極的に展開するよう努める。

#### (ウ) 家庭教育学級（ふれあい学級）等の開催

家庭は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、思いやりや善悪の判断、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割がある。

これまでのふれあい学級の内容に加え、未就園児や小学校低学年を中心とする家庭教育の支援を強化し、家庭が本来果たすべき役割を見つめ直し、親の役割、子どもの心の理解、躰など家庭での教育について考え、学び合う家庭教育学級等を開催する。

さらに、茨城県教育委員会が作成発行している「家庭教育ブック」等を活用し、小学校との共催により、就学時健康診断や入学説明会などの機会を捉えた家庭教育講演会を開催し、家庭の教育力向上に努める。

### (2) 学習の成果を活かす環境づくり

生涯学習の成果がボランティア活動や地域づくりに活かせるよう支援し、地域内の人材の発掘・育成を行うとともに、地域の活性化や特色あるまちづくりにつながっていくよう環境づくりに努める。

#### (ア) 地域資源の活用推進

市内には、歴史的な資産や史跡をはじめ博物館、歴史館などの文化施設、学校や大学などの物的資源やそれぞれの施設に所属する職員などの人的資源があり、豊かな地域資源に恵まれている。このような地域にある資源を活用した事業を開催するとともに、生涯学習の振興に取り組む機関や団体との連携を図りながら、地域資源の有効活用に努める。

#### (イ) 学習活動の成果を発表する場の創出

山根市民センターを会場に開催している講座の展示会や発表会など、学習の成果を発表する場を創出することにより、学習者同士や参加者との交流を拡大させ、新たなネットワーク構築に努める。



(ウ) 学習の成果を地域活動に活かす仕組みづくり

生涯学習の成果をボランティア活動や地域活動に活かすことが、地域の活性化に大いに役立つものと期待されている。山根市民センターで学んだ市民が、その成果を地域コミュニティ活動につながるよう人材の育成と活用に努める。

(エ) 事業評価に基づく事業の推進

山根市民センターの講座や事業に参加した市民が日常生活の中で、学習の成果をどのように活かし、また、地域の中で、どれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。

山根市民センターにおいては、実施した講座や事業について自己評価を行うとともに、自己評価をもとに、運営審議会等第三者機関による検証を行い、効果的な事業運営に努める。

(3) 学校、家庭、地域の連携の強化

学校、家庭、地域が目標や課題を共有し、それぞれが連携して対応策について取り組めるシステムを構築し、地域社会全体の教育力の向上に努める。

山根市民センターにおいては、それぞれをつなぎ結ぶ地域拠点施設としての機能を十分発揮する。

(ア) 次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む

学校、家庭、地域が相互に連携を図りながら、様々な形で異年齢集団との交流や大人と接する事業など、子どもたちが直接体験する場を提供し、社会全体で次代を担う子どもたちの「生きる力」を育む活動の推進に努める。

(イ) 社会全体で支える家庭教育

子どもたちが健全に成長していくためには、良好な家庭環境や社会環境を整える必要がある。そのために、家庭の教育力の向上だけでなく、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちの成長を温かく見守りながら、家庭教育を社会全体で支える仕組みづくりに努める。